

## 2016 年度 植林報告

以下のように、植林作業を実施したことを報告します。

### 1. 植林作業実施概況

|           |  |  |
|-----------|--|--|
| 植林<br>実施日 | 春季   | 植林作業・・・・・・・・・・5月9日～17日<br>新規植林地 約28ha<br>新植林本数 70,000本 |
| 植林場所      | モンゴル国セレンゲ県<br>アルタンボラグ村ゴロワンツァガートルゴイ周辺   |  |
| 樹種        | ヨーロッパアカマツ <i>Pinus sylvestris</i> (在来種) の2年生苗  |  |
| 植林作業      | アルタンツェツェグ (セレンゲ県ボゴントグループ)<br>トゥメンナサン (ボゴントノミン社技術員)<br>松永美湖 (株式会社アールキューブ社員)<br>ノヨルマー (GNC Mongolia スタッフ)<br>オグナー (GNC Mongolia スタッフ)<br>サラ (GNC Mongolia スタッフ)<br>小川 安里 (GNC Japan スタッフ)<br>アルタンボラグ村及びボゴント村の村民など約15名他 |  |

2. 2016 年植林地の GPS 捕捉状況



| No | 経度        | 緯度       |
|----|-----------|----------|
| 1  | 106. 9116 | 50. 2196 |
| 2  | 106. 9167 | 50. 2214 |
| 3  | 106. 9180 | 50. 2188 |
| 4  | 106. 9151 | 50. 2175 |
| 5  | 106. 9152 | 50. 2153 |
| 6  | 106. 9108 | 50. 2137 |
| 7  | 106. 9100 | 50. 2150 |
| 8  | 106. 9089 | 50. 2147 |
| 9  | 106. 9081 | 50. 2156 |
| 10 | 106. 9096 | 50. 2163 |
| 11 | 106. 9091 | 50. 2171 |
| 12 | 106. 9110 | 50. 2185 |
| 13 | 106. 9113 | 50. 2174 |
| 14 | 106. 9127 | 50. 2180 |
| 15 | 106. 9116 | 50. 2196 |



### 3. 2016 年植林地の概況報告

今年の植林地は国境の町アルタンボラグ村より約 60km 東方に位置し、植林地周辺では畑作地が隣接しているものの、家畜の放牧は全く行われておらず、住民も居住していない場所である。2009 年 6 月の林野火災が原因と見られている。10 年程前、植林地周辺は林であった。しかし森林火災や伐採により草地化が徐々に進んでおり、山火事対策と植林による植生回帰が急務である。



本数確認(約 1000 本/袋)

2015 年は 7 月中旬まで雨が降らず乾燥していたため、去年の植えた苗木の 7 割が枯れていた。本年は出来るだけ雨の後を目指し、5 月 9 日から植林を行った。また同時に昨年度の植林の再植林も実施した。



2 年生苗

苗木は昨年と同様に、ポゴントから良質の苗木を輸送した。使用したのは写真の通り 40cm の 2 年生アカマツ苗である。草が多いため、植林前に掘って植え付けを行った。植生はイネ科やキク科の下層植生が密生し、草丈の長いものは 1m 程に達しているものも見られた。土壌は砂質壤土で保水性が良好だった。

2016 年は例年より雨が多かった。そのため 2016 年 9 月初旬の調査の際には、全体の 95% が活着しているようだった。日陰になる場所に植えるなど、溝の中での植林位置を徹底していた点も大きかったようだ。



苗の仮保存状況

今年度は GNC Mongolia のスタッフが中央県から出向き、セレンゲ県で植林を実行した初めての年となった。当初はセレンゲ県内の森林組合や現地の方々との関係も危惧されたが、これまでの実績と人脈、スタッフの頑張りのおかげで問題とならなかった。



遠景写真

今年度の植林密度は 2500 本/ha、春季植林にお



いて予定していた 28ha の植林が全て完了したことを報告する。

#### 4. 植林時の写真



ジャムスランさんより指導



植林時の状況



溝掘アタッチメント



植林メンバー



植林地写真







植林地写真



## 5. 定点観測調査

植林地内においてランダムに調査定点を2カ所設定し、次の項目について調査を実施した。定期的に同様の調査を実施し、植林地としての変遷を追跡していくこととする。

### 成長把握調査

苗木の成長を把握するため、各定点で5本の苗木を試料木とし樹高測定・写真撮影。定点 St. 1 での調査結果は以下の通りである。

